

地域の偉人 観賢知ろう

鶴尾小など、功績冊子に

高松市の鶴尾小学校と 地域の偉人をたたえ、同校区の企業・団体などでつくる「鶴小観賢学習支援委員会」（高尾将臣委員長）が、同校区出身で、空海の大師号の授与に尽力した平安中期の僧侶・観賢僧正の生涯と功績をまとめた冊子を発行した。

後世へ語り継いでいこうと、同校が中心となって冊子作りを企画。地域や同校に残る資料などを基に、児童にも分かりやすい言葉や表現に改めながら、昨年4月から約半年かけて完成させた。

観賢は旧鷺田村（現・

平安中期の僧侶・観賢僧正の生涯と功績などを紹介した冊子



西ハゼ町）生まれの真言宗の僧。東寺、仁和寺など大寺院の要職を歴任し、925年に72歳で亡くなった。

冊子では、醍醐天皇の命を受け、空海に弘法大師の称号と衣を贈るために使者として高野山を訪問し、廟の中の空海の頭髪をカミソリでそったというエピソードなどを紹介。校区内に残るゆかりの地、児童が観賢について学ぶ様子を収めた写真なども盛り込んでいる。冊子はB5判、オールカラーの226ページで、3200部を作製。全校児童や地域団体などに配付したほか、観賢ゆかりの寺院、県と高松市の図書館にも寄贈した。同委員会は「ふるさとの偉人について理解を深め、児童たちに自分の住む町への誇りと愛着を持ってほしい。地元の人々にも地域の良さを再認識してもらえれば」と話している。